

猛禽類のいま

「わざわざ転じて福となす」自然教育園でのオオタカ繁殖の顛末

今年の6月、自然教育園1階展示ホールの一隅に人だかりができていました。“オオタカの子育てを観察しよう！”という張り紙があり、園内で営巣しているオオタカのようなすが大型のディスプレイでライブ放映されていました。【写真】

自然教育園は、通称“めぐろの教育園”として東京都心の緑地として親しまれ、かつては「オシドリの名所」として、また近年は「カワセミの繁殖地」として知られている場所ですが、今春から“オオタカの営巣地”として名乗りをあげています。

“猛禽類の営巣地は非公開”が一般的ですが、自然教育園は研究・教育の場であり、また、開発問題等のトラブルがないことで今年から公開されています。オオタカが営巣をはじめたのは2017年からで、巣を造った場所はなんと同園の名所のひとつの「物語の松」の近くのアカマツの枝先。入園者の誰もが通るメインの園路の真上でした。

園の人たちや研究者、写真愛好者などが心配したのは、“カメラマンが大勢きて、繁殖の妨害となり、来園者の通行の邪魔になる”ということです。また、同園は都内有数のカラスのねぐらですので、カラス(ハシトガラス)による繁殖妨害です。

2017年のカメラマン対策は「営巣が知られないようにすること」と「巣の下に留まらないよう工夫すること」でなんとか乗り越えられましたが、もう一つの心配事のカラスの方は的中。6月初めごろに2羽のヒナが誕生しましたが、その直後、来園者から巣にカラスが来て、何かをくわえていったという情報があり、実際その後ヒナは見あたらず、親鳥も巣を放棄しました。翌2018年は5月6日に同じ巣で抱卵が観察され、6月5日にヒナが2羽誕生。カメラマン・カラスの妨害もなく順調に育ち、7月12日までにぶじ若鳥が飛び立ちました。

3年目の今年は、かつて同園で好評だった「カワセミの子育て生中継」と同じように、営巣のようすをライブで来園者に見せるために、巣にビデオカメラが取り付けられました。オオタカは同じ巣で繁殖をはじめましたが、4月初めに“大事件”が発生。なんとカラスがオオタカの巣材を次々に持ち去ってしまい、巣自体がなくなっていました。実はこの巣の土台はカラスの古巣。この行為は、カラスにとっては、自分の巣材を取り戻したということになり、天敵オオタカへの繁殖妨害も意味していたと思われる。

ところが、誰もが今年の営巣は無理と思っていたところ、4月下旬に一般来園者の立入りできない地区で抱卵しているのがわかり、5月終わりごろには2羽のヒナが生まれ、6月末には2羽の若鷹が巣立っていきました。

それにしても、ここのオオタカ夫婦はなぜ人通りの多い園路の真上で営巣したのか不思議です。理由についてはいろいろ推測されますが、新しく造った巣は堂々としたオオタカらしいもので、これからも問題なく繁殖が継続すると思われる。

この営巣場所の変更は、カラスの加害はともかくとして、カメラマンへの心配がなくなり、とりあえず「わざわざ転じて福となす」といったところですか。

【研究部・川内】

【ここでの繁殖の2017・2018年のようすは、同園の『自然教育園報告 第50号』で知ることができます。自然教育園のホームページにアクセスしてみてください。】



■ 研究部レポート (その②)

東京湾のミヤコドリ・6 速報! 三番瀬に標識フラッグ付きのミヤコドリ

田久保晴孝

9月25日、千葉県船橋市の三番瀬で調査中、ミヤコドリの群れの中に黄色い標識フラッグをつけたミヤコドリを発見しました。フラッグには「T6」と記されていました。【写真】山階鳥類研究所に知らせたところ、黄色の標識であるならばカムチャツカでバンディングされたものとのことでした。

以前から日本へ越冬のためにくるミヤコドリの繁殖地はカムチャツカではないかといわれていましたが、今回の発見はそれを裏付ける貴重な観察となります。詳しいことは、山階鳥類研究所からの発表が出てからお知らせします。

※このフラッグ付きのミヤコドリを観察された方は、発見日時・場所・状況などを事務局・研究部あてにお知らせください。



越冬期調査

1. 第3回 とうきょうのオオタカ・ノスリー斉調査

前年までと同じように、オオタカ・ノスリおよび猛禽類の調査を下記の要領で実施します。発表に際しては、調査場所が特定されないように注意します。

【調査要領】

- (1) 調査範囲：東京都内および東京を中心とした首都圏(場所は任意で)
- (2) 一斉調査日：2020年1月5日(日) 午前10時～12時(雨天決行)
- (3) 調査方法：日ごろ生息を確認している場所で、全域を調査し、猛禽類の生息・羽数を確認してください。
- (4) 記録の報告：調査結果は、調査場所・お名前・連絡用電話番号を明記の上、1月20日までに、メール・郵送・ファックスなどで下記の研究部あてにご報告ください。

2. カモを中心とした個体数調査

例年と同様、下記の要領で実施します。

【調査要領】

- (1) 調査範囲：東京都内全域(島しょ・海上を含む)
- (2) 調査期間・時間帯：2020年1月4日(土)～1月19日(日) 原則9時～15時
- (3) 調査方法：カモが生息する場所で、カモ類および下記の水鳥10種〔※〕のカウントを実施。余裕があれば同時に見られた鳥の種類と数。
※1：カイツブリ・カワウ・ゴイサギ・ダイサギ・コサギ・アオサギ・バン・オオバン・ユリカモメ・カワセミ
※2：ハクチョウ類・ガン類、シギ・チドリ類も注意してください。
- (4) 記録の報告：調査結果は、1月31日までに、上記1(4)と同じようにお願いします。

【1・2の連絡先】

メール：office@yacho-tokyo.org Fax：03-5273-5142

郵送：〒160-0022 新宿区新宿5-18-16 新宿伊藤ビル3階 日本野鳥の会東京・研究部